

会議録（要旨）

会議名	令和7年度 野村胡堂・あらえびす記念館運営審議会						
開催日時	令和7年7月24日（金）14時00分～15時00分						
開催場所	野村胡堂・あらえびす記念館ホール						
審議会次第	辞令交付 1 開会 2 挨拶（町長） 3 職員紹介 4 報告事項 (1) 令和6年度事業報告について (2) 記念誌刊行事業に係る寄附の募集について 5 審議事項 (1) 令和7年度事業計画について (2) 30周年記念誌刊行事業（案）について (3) 今後の記念館の在り方について 6 その他 7 閉会  企画展見学、レコード鑑賞						
運営委員出欠状況	会長	江藤 <small>ひでいち</small> 秀一	出	委員	住川 <small>みどり</small> 碧	欠	
	委員	杉本 <small>つとむ</small> 勉	出	委員	山際 <small>まさゆき</small> 正之	出	
	委員	鈴木 <small>ふみひこ</small> 文彦	出				
紫波町	町長 熊谷 泉			副町長 藤原 博視			
	教育長 侘美 淳			教育部長 葛 博之			
	生涯学習課長 小川 篤			生涯学習課 副課長 千葉 広幸			
	歴史文化係長 岩館 岳						
指定管理者 (記念館協力会)	野村胡堂・あらえびす記念館協力会 理事長 内村 正義			野村胡堂・あらえびす記念館協力会 常務理事(記念館館長兼事務局長) 長澤 成喜			

進行（生涯学習課長）

## 1 開会

委員 5 名中 4 名が出席、委員の過半数が出席していることから、「野村胡堂・あらえびす記念館条例施行規則」第 12 条第 2 項に基づき、本会議は成立。

## 2 挨拶（町長）

暑い中参集いただき感謝申し上げる。記念館が開館 30 周年を迎えるにあたり、昨年から企画展などのさまざまな事業を展開している。また、開館 30 周年記念誌の発行に向けて寄附を募集しており、目標額の約 6 割が集まっている。10 月には記念式典も予定されている。今後の記念館の運営に忌憚のない意見をいただきたい。

## 3 委員・職員紹介

## 4 報告事項

- <事務局> 「令和 6 年度事業報告について」「記念誌刊行事業に係る寄附の募集について」を説明
- <山際委員> 来館者数は前年度と比べ増加傾向との事。大変結構だと思う。9 月がとくに多いのは何か理由があるものか。
- <事務局> 9 月は例年キッズフェスティバルというイベントを開催しており、900 人の来館者があり、数字が伸びた要因と思われる。
- <山際委員> 記念誌刊行の寄附だが、目標額があるのか。
- <事務局> 現在 100 万円を見込んでいる。
- <鈴木委員> 施設使用料の増加、これはホールの利用が増えているのか。
- <事務局> ご指摘のとおり。ピアノの練習などが近年増えている。
- <鈴木委員> 他にはない素晴らしい施設。近在の人達に利用していただいているのはとても良い事。この記念館の特徴である。利用者が増えているのは嬉しいことだ。
- <会長> 記念誌の寄附の件、100 万円の目標で現在 63 万円、6 割程度集まっているという事だが、どういう形で広報活動を行い、またどういう方々からご寄附いただいたかおおよそ分かるか。
- <事務局> 町のホームページに募集情報を掲載し、記念館協力会の会員の皆様には案内文書を送付した。寄附者は町内だけでなく、県外の方からも非常に多くいただいている。ありがとうございます。
- <会長> 県外の方というのはホームページを見られた方か。
- <事務局> 協力会の会員で県外にお住まいの方などからも寄附をいただいている。
- <杉本委員> 30 周年記念誌刊行に際しての支援については、私から堂子会にもお知らせした。少しでも支援の輪を広げたいと思い事業に協力している。
- <会長> 私も堂子会については考えていたので杉本委員には感謝する。
- <鈴木委員> 先ほど話が出た協力会の方々は町内、県内、県外など、どのような構成となっているのか。また次の 30 年に向けての今後の記念館のあり方としてどのようにして記念館の存在を知らせていくのか。協力会の方々の口コミや、SNS での発信などを利用するのか。協力会の会員は私のイメージとしては町内の関係者だけだと思っていたがどうか。
- <事務局> 協力会の方々は、やはり記念館のある彦部地区にお住いの方が多いが、ゆかりのある方や関係者も参加いただいている。全体で約 600 名おり、そのうちの約 8 割が町内在住の方となっている。
- <杉本委員> 銀座 7 丁目で「銭形」という居酒屋を経営している斎藤さん、神田神保町の「文錢堂」というレコード店など東京には胡堂ゆかりの店があり、昨年私もお伺いしご挨拶をしてきた。これらの店などとも連携していくべきだと思う。
- <会長> 町以外でも協力していただける方があるという事はありがたい。

## 5 審議事項

- <事務局> 「令和 7 年度事業計画について」「開館 30 周年記念誌刊行事業（案）について」「今後

## の記念館の在り方について」説明)

- ＜鈴木委員＞ 文章講座の受講生からその後活躍されている方も出てきている。記念館で開催している小説講座が、県内で小説を書こうとしている方々に貢献している。岩手日報社では創刊150周年記念で岩手日報文学賞を創設し、現在小説を募集している。記念館の講座の受講生の中から、入賞される方が現れると面白い。今後も良い環境の中で文章講座を続けてほしい。記念誌の中身を見たが、確かに以前作家の永井路子さんが記念館で講演をされたように聞いている。様々な方が記念館を訪れている。コンサートの方は記念館の資料でまとめられると思うが、できれば30年の中で企画された講演などの事業の中身も拾い上げてほしい。付録や資料編としてもよい。
- ＜事務局＞ 今回記念誌の中ではすべて取り上げることは難しいが、毎年刊行している「館報」の中で要約した形で掲載されており、順次インターネット上で公開している。これとうまく結びつけられればよいと考えている。記念誌については皆様から寄せられたご意見を参考に編集を進めていきたい。文章講座の件だが、例年小説コース、エッセイコース、脚本コースの3本立てで行ってきた。今年度については小説コース、エッセイコースは例年通りだが、脚本コースについては「岩手の文学を学ぶコース」として小説などを書く前段階としての講座とした。内容を工夫し、新たな人たちを呼び込む工夫をしていきたいと思う。
- ＜杉本委員＞ 堂子会での関わりの中で、開館から少しずつお付き合いをしてきたが、開館記念の河村幹夫氏の講話「錢形平次とシャーロック・ホームズ」などが印象に残っている。記念誌の30年間の歩みの中で、トピックとして例えれば河村幹夫氏の講話の一部を掲載するなど特徴的なものを取り上げられないか。それが記念館のアーカイブとなってゆくと思う。
- ＜会長＞ 私も講演会や講座など記念館で開催したものを残していく事は大切と思う。後で振り返った際にこういう事があったのかと思い起こすことができる。この一冊を見れば、記念館の30年間のさまざまな出来事が俯瞰して見られるものとして残してほしい。次の50周年の際に同じように記念誌を作ろうとすれば紙媒体ではなくデジタル化されていると思うが、30周年の記念誌からの流れが一連の流れとして分かるようにしておけば一貫した歴史として見える。講演会や講座を全て収録することは難しいと思うが、タイトルや講師のお名前だけでも今回の記念誌に工夫して掲載できれば良いと思う。
- ＜会長＞ 重点目標と7年度の事業との関連性が分かるように資料の記載内容を工夫してほしい。
- ＜山際委員＞ 資料の中にプライベートレコードコンサートの促進とあるが、具体的にどういう事を考えているのか。また収蔵資料のデジタル化で、あらえびすSPレコードのデジタル化があるが、これまでも作業を行っておりかなり進んだと思うが、どの程度の進捗か。
- ＜教育長＞ プライベートコンサートは、貸し館をした際に個人で所有しているレコードなどを記念館の機材を利用して聴くことができる取り組み。利用者にとって至福のひとときを提供するという意味合いがある。これも利用者の楽しみの一つとして良いと思う。
- ＜事務局＞ 収蔵資料のデジタル化は令和6年度時点で6,204枚終了した。残りが535枚あり、あらえびすコレクションは令和7年でデジタル化終了の見込み。
- ＜会長＞ 令和7年度で事業が終了し、令和8年度以降はデジタル化した資料の活用が焦点になると思うが、今後が楽しみだ。
- ＜教育長＞ なお、山際委員のコレクションが今後記念館に寄贈になる予定。胡堂氏のコレクションばかりではなく、100年以上前の貴重な資料があるので、その中からまた順次デジタル化を行っていきたいと思う。今はとりあえずあらえびすコレクションを完了しようとしている。
- ＜事務局＞ (「今後の記念館の在り方について」説明)
- ＜杉本委員＞ 30年という大きな節目の中で、今後大きなキーワードとして、記念館の管理と活性化がある。来館者を増加させるためにある程度規制を緩和することも大切。私は盛岡市の社会教育委員にも任命されており、盛岡の状況も聞いているが規制緩和が結構遅れている。例えば博物館、記念館の写真撮影は禁止されているが、世界的にみると、写真撮影のハードルが低くなっている。著作権のからみもあるが、かなり融通がきくようになっている。先人記念館の館長とも協議したことがあるが、やはり緩めた方がいいというご意見を持っておられた。来館者を増やすためには、規制を適切な形である程度緩めることが

必要と思う。また、博物館施設の中で、しゃべるな、騒ぐな、触るなと禁止事項ばかり強調されてきたが、今は資料に触ってみてください、しゃべってもいいですというように変わってきている。子どもたちなど来館者の方々にいかにサービスを提供できるかという方向に世界的にも変化している。30年を機に見直していただければ記念館の活性化になると思う。未来志向の運営の在り方を探っていただきたい。

＜山際委員＞ 記念館の存在を広く知っていただくことが大切。銭形平次の映画がBS放送で時々放送されており、これも一つ宣伝となっている。人口減少などのの中で、来館者も将来的には減っていくのではないかと想像されるが、このことを自覚し、野村胡堂という人物、銭形平次という貴重な文学作品をアピールすることが大切。また、今はテレビでもクラシック音楽の番組が減っており、クラシック音楽に対する関心を維持していく事が大変だと考えさせられる。銭形平次にしろ、クラシック音楽にせよ、いかに伝えてゆくかという事が我々の使命であると思っている。皆さんで知恵を出し合ってよく考えていただきたい。

＜鈴木委員＞ 杉本委員のお話を聞きして、著作権の問題はあるが、写真撮影などのサービスを提供できれば来館者のためになると思った。ある程度自由にすることは賛成する。今、盛岡の先人記念館に関わっている。先人記念館は県立美術館と隣り合っているが、先人記念館は盛岡市、美術館は県立と管轄が違う。そのため2館共通の入館チケットがない。隣同士なのに連絡通路もなく、遠回りしなければならない。2館で連携してお客様を呼び込むという事ができない。行政の区分けを取り扱うことが懸案となっている。そう考えると、紫波町のあらえびす記念館も連携するとすれば県なのかもしれないと思う。来館者の視点に立って、改良すべきところは改良するという姿勢で、これから10年、20年のためにやれることをやっていただきたい。藤沢周平記念館には開館時から関わっているが、以前杉本委員が野村胡堂記念館の館長の時に、記念館の関係者で訪問されたと聞いている。また、神奈川近代文学館は資料が非常に充実している。他県の文学関係の記念館との横の連携も大切と思う。藤沢周平記念館の学芸員は新しい方で、内容を把握するのにだいぶ苦労されているようだ。各館の学芸員同士の交流もあればお互いに情報交換をして、良いアイデアが生まれるのではないか。野村胡堂記念館もほかの文学記念館や、音楽ホールなどの連携を強化してほしい。

＜杉本委員＞ ハードとソフトが充実しているという意味では、野村胡堂記念館は全国でもトップクラスだと思う。ただし、ソフトが生かし切れていないという課題がある。全国的にも貴重なお宝をいかに活用していくか、収蔵されている資料に光を当てていただきたい。私が館長の時代に、SPレコードのデジタル化を行った際にも価値のある非常に貴重なものがあった。記念館の資料、まだまだ生かし切れていないので、今後の活用に期待する。

＜会長＞ 30周年の記念誌の一部として記念館誕生物語が本日の資料として配布されているが、これを読めば、どのような気持ちで記念館が作られたのかが分かると思う。もう一度その原点に戻って、当初どのような目的で作られたのか振り返ることも大切。先ほどの運営方針の中にも「野村胡堂の文化的業績を顕彰し」とあるが、その方向性を改めて確認し、記念館の立ち位置をこの機会に確認したい。銭形平次をはじめとした文学的功績、音楽の功績、奨学金による人材の育成、野村胡堂氏のあたたかい人となり、この3つを踏まえて発信していく事が大切と思う。また、記念館は町民にとって自分たちの誇りになる施設と思うが、銭形平次を知らない世代も増えてきており、町民が、施設が自分たちに関係ないものと受け止め、税金投入に理解を示さなくなるとさまざまな事業ができなくなる。では、町の方々にご理解いただくためには、この施設はどのような使い方をすればよいのか。私は町の誇りである野村胡堂の業績を次の時代を担っていく子どもたちに伝えてゆく必要があると思う。そのために記念館を子どもたちの教育施設的に活用する方法もあるのではないか。楽器を作ってみよう、レコードを作ってみようというワークショップなどの体験型の利用も考えられる。小さい時から野村胡堂記念館で学ぶことにより、大人になってからのリピーターが増えると思う。町の方々の身近な自分たちの施設として活用してほしい。ぜひこのいい施設を50年、100年と未来に渡って使っていただき、繁栄してほしい。

＜鈴木委員＞ 30周年のイベントだが、人集めのための目玉のイベントはあるのか。予算の関係もあるが、過去に銭形平次を演じた俳優に声をかけてはどうか。先日たまたま村上弘明さんとお話しする機会があったが、非常に気さくな方だったので、頼めば応じてくれると思う。記念館に来られなくとも、文章でお声を寄せていただくもの良い。

<教育長> 記念誌の寄附金がどのぐらい集まるかという事も一つのポイントになると思うが、今のお考えも大切なご意見として承った。

## 6 その他

<事務局> 山際委員から発言の申し出があったので、ご発言を願う。

<山際委員> 今回の審議会を持ち、審議会委員を退任させていただきたい。あと3週間で93歳となる。昨年より足も弱まり体調が万全ではなく、皆様にご迷惑をおかけすることが多くなり、今回で退任という事でお願いしたい。思い返すと、30数年前、ある会合で松田智雄先生とご一緒した際に、野村胡堂記念館の構想をお聞かせいただき、あなたも一緒に手伝ってほしいと、おっしゃっていたのが最初。今年は開館30周年という事だが、その4~5年ほど前から記念館構想の検討という事で参加しており30数年記念館に関わってきた。野村胡堂記念館の事業に携わってきたことは、大変貴重な経験であった。審議委員の皆様、町長以下町の職員の皆様、記念館の職員の方々のおかげで、来館者も少し増える方向にある。とても結構な事。最後にもう一つ。嶺貞子先生が亡くなる数年前にお話しくださったが、「美空ひばりは違うよ、あれは本物だ。美空ひばりは聞くに値する歌詞であり、歌であり、中身がある」とおっしゃった。音楽だけでなく、文学でも何にでも共通するお話ではないかと思う。この記念館は、文学であり、あるいはクラシック音楽であり、いわばその頂点をゆく事業を展開してほしい。どうか皆さんのご努力でますます発展されることを祈念している。本当に30数年間、皆様にお世話になった。ありがとうございました。心から御礼申し上げる。

<町長> 先日、岩手日報広華会の総会がラ・フランス温泉で行われた。その際に日報の鈴木部長が、今年の年末にかけて野村ハナさんを主人公としたドラマを作るというあるテレビ会社の企画があるとお話しされた。皆様もご期待いただきたい。

## 7 閉会

※閉会後、企画展の見学、デジタル録音の試聴を行った。